

りそな 経済フラッシュ

(米国2020年4-6月期GDP速報)

◎注意事項をよくお読み下さい

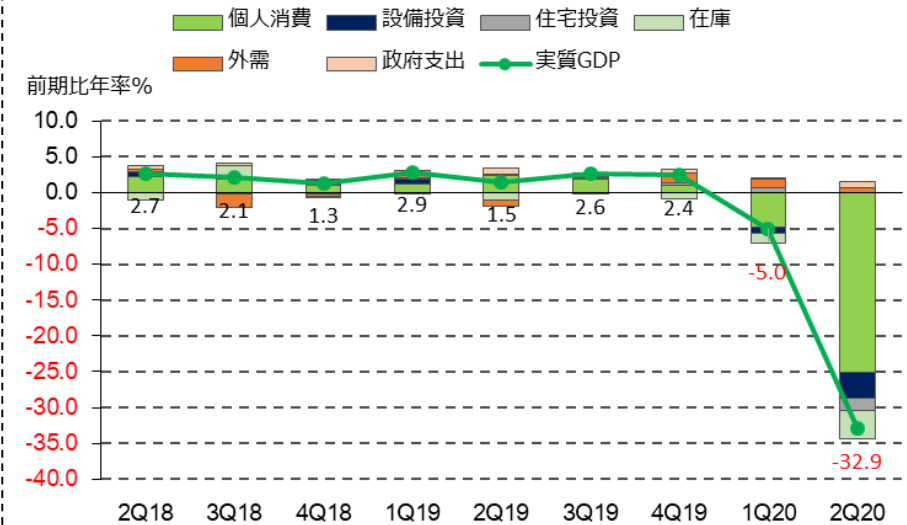


〇概況

- ◆ 4-6月期実質GDP成長率は前期比年率▲32.9%
- ◆ 個人消費が前期比年率▲34.6%、特にサービス消費の落ちが大きい
- ◆ 7-9月期反動出るとみられるが、経済回復パスはコロナ次第で非常に不透明感が強い

- ✓ 2020年4-6月期実質GDP成長率は前期比年率▲32.9%となった（市場予想▲34.5%、1-3月期▲5.0%）。新型コロナウイルスによる経済制限措置の影響を強く受け統計開始以来最大のマイナス幅。尚、コアPCE価格指数は前期比年率▲1.1%とマイナスに転換した（1-3月期+1.6%）。
- ✓ 個人消費が前期比年率▲34.6%（市場予想▲34.5%、1-3月期▲6.9%）と予想を下回りやや軟調。内訳は耐久財（1-3月期▲12.5%→4-6月期▲1.4%）、非耐久財（+7.1%→▲15.9%）、サービス（▲9.8%→▲43.5%）。特にサービス消費の落ち込みが大きくなっている。
- ✓ 設備投資は前期比年率▲27.0%（1-3月期▲6.7%）と大きくマイナス幅を拡大。昨年来弱含みのサイクルとなっていた設備投資がコロナ禍で更に大幅に落ち込んだ。一方、住宅投資も前期比年率▲38.7%（1-3月期+19.0%）と大きく落ち込んだ。
- ✓ 在庫は前期比年率ベースの寄与度が▲4.0%ポイント。
- ✓ 輸出は前期比年率▲64.1%（1-3月期▲9.5%）、輸入は▲53.4%（1-3月▲15.0%）と輸出入ともに大幅なマイナス。
- ✓ 政府支出は前期比年率+2.7%（1-3月期+2.7%）で6四半期連続のプラス。
- ✓ 内外需ともに経済制限の影響を強く受けたことが確認されるが、在庫投資が大きくマイナスとなるなど、在庫投資もマイナスとなるなど需要ショックと同時に稼働停止に伴う供給サイドの問題も非常に大きかったといえる。
- ✓ 7-9月期はとりあえず反動のプラス成長が予想されるが、経済回復パスはコロナ状況次第で不透明感が非常に大きい。

【実質GDP成長率（季節調整済、年率）】



【実質GDP成長率寄与度（季節調整済、年率）】

	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2020Q2
実質GDP	+1.5	+2.6	+2.4	▲5.0	▲32.9
個人消費	+2.5	+1.8	+1.1	▲4.8	▲25.1
設備投資	+0.0	+0.3	▲0.0	▲0.9	▲3.6
構築物	+0.1	+0.1	▲0.2	▲0.1	▲1.2
機器	▲0.2	▲0.1	▲0.1	▲0.9	▲2.1
知的財産	+0.2	+0.2	+0.2	+0.1	▲0.3
住宅投資	▲0.1	+0.2	+0.2	+0.7	▲1.8
在庫	▲1.0	▲0.1	▲0.8	▲1.3	▲4.0
外需	▲0.8	+0.0	+1.5	+1.1	+0.7
輸出	▲0.5	+0.1	+0.4	▲1.1	▲9.4
輸入	▲0.3	▲0.1	+1.1	+2.3	+10.1
政府支出	+0.9	+0.4	+0.4	+0.2	+0.8

【出所】米商務省、Haver Analytics

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。